

ソシオメトリック知覚と対人感情の関係

武 田 建

I 序

Asch¹⁾は「この世の中で生きて行くには、社会的事実つまり人間と集団についての知識を必要とする。換言すれば、人々の間で生活して行くにはお互の存在を知覚し、お互の要求、感情、思考を推測することが極めて大切である」と述べています。

ただ私達が他人を知覚し他人の要求を推測する場合普通それを極めて自動的にやっている様で、私達は知覚や推測に際してほとんどその原理といったものを考えません。相手の意図や心理をびったり当て得る人ですらこうした知覚や推測の過程を一々分解して考える事はない様です。しかしこの自動的な過程には2つの面があると思われます。即ち私達は一方では知覚により種々の情報をかき集め、他方ではこれから起る可能性を予想していると考えられます。

Tagiuri²⁾は知覚過程に影響を与える要素を3つあげています。即ち第1は相手(被知覚者)の置かれている状態(the situation)であり、第2は行動や感情を示している被知覚者自身(the person perceived)であり、第3は知覚者自身(the perceiver)つまり知覚者が自分の好き嫌いや欲望偏見の為に相手の人物や事象を色眼鏡で見るという現象です。この第3の要素は、私達の知覚対象があいまいであればある程強いと考えられます。最近のソシオメトリック知覚の研究は、この第3の知覚者自身を仮説構成体(hypothetical construct)としている場合が多くみられます。

Ausubel^{2) 3) 4) 5)}やTrent¹⁴⁾は知覚者のソシオメトリック地位の高低と知覚者自身及び他者のソシオメトリック地位を知覚する際の正確度との

間には、有意性のある関係は存在しないと報告しています。又自分のソシオメトリック地位を推測する能力と他者のソシオメトリック地位を推測する能力との間にも有意性のある関係は存在しない事を述べています。

Frenkel-Brunswik⁶⁾はこうした知覚の不正確性の原因を、我々が自分自身をあるがままに見ないで、自分達の欲求に基づいて見る「自己欺満のメカニズム」の為だと説明しています。或はこれはChowdhryとNewcomb⁸⁾が指摘する様に、正確なソシオメトリック知覚は何時如何なる時にも行なわれるのではなく、特定のグループ構成と機能にうまく出会った時にのみ発揮出来るものなのかも知れません。Borgatta⁶⁾は「多くの仲間選ばれようと期待する傾向」と「多くの仲間を選ぶとする傾向」との間には強い相関関係があることを発見しています。又ソシオメトリック地位が高い者程「多くの仲間から選ばれようと期待する傾向」が強いのに反し、「多くの仲間を選ぶとする傾向」は地位の高低と何等関係がない事が報告されています。CampbellとYarrow⁷⁾は知覚の過程や型態は言語行動の良否及び効果性とは全く関係がない点を指摘しています。ただ知覚者が被知覚者乃至被知覚事象を多角的に理解考察し得る人間であればある程、行動の効果性も大きいと述べています。

Tagiuri^{11) 12) 13)}は知覚者と被知覚者の間に好意的な態度乃至感情が存在し、特に「二者がお互に同じ気持を持っている場合(mutualityの関係)」は自分に対する相手の感情の知覚が正確に行なわれることを発見しました。しかし「二者がお互に同じ気持を持っていない場合(non-mutuality)の関係)」には知覚の正確度は生れて来ない様です。又「二者がお互に好意を持っている場

合」同じ集団内の第三者にとっては比較的正確にこの相互感情を認め易い反面、「二者がお互に好意を持っていない場合」には両者間に存在する感情の知覚は不正確にはなり易い事が明らかにされています。Tagiuri はこうした対人感情が他者によって明瞭に知覚される1つの原因は、「相手に好意を持たれている」という自信の為に自己の感ずるところを自由に表現する為だと理由づけています。ただこの様な「二者間の相互感情」は対人感情の明瞭化の上で極めて重要ですが、ソシオメトリック地位の明瞭性とは何の関係もないことは興味深いことです。

II 目的と問題

この調査の目的は、集団内の任意の2成員間の対人関係やソシオメトリック地位が対人感情や地位の知覚と如何なる関係にあるかを明らかにするものであり、具体的には次の様な質問の形であらわされます。なお問題に先だち記述の簡便さのために次の様に用語を定義します。

S. (subject) : 知覚者及びソシオメトリック選択を行う者

O. (object) : 被知覚者及びソシオメトリック選択の対象者

知覚上の相互型: congruency のことであり、S が自分に対するOの気持をOに対する自分の気持と同じ様に知覚する傾向のことをいいます。例えばSがOを好きなら、Oも又Sを好きだろうと考える傾向で、一方若しSはOが好きでもOの方でSを好きではないとSが知覚すれば、「知覚上の非相互型」となります。

実際の相互型: mutuality のことであり、SのOに対する気持とOのSに対する気持が一致していることをいいます。例えばSがOを好きで、OもSを好きという関係で、若し一方が好きでも一方が嫌いならば、「実際の非相互型」となります。

知覚上の選択: SがOに好かれていると思えば「知覚上の選択」であり、SがOに嫌われていると思えば「知覚上の非選択」です。

実際の選択: OがSや好きである場合を「実際の選択」といい、好きでなければ「実際の非選択」と呼びます。

問題 1.

OのSに対する気持をSが知覚する正確度は「知覚上の相互、非相互」とどの様な関係にあるのだろうか。換言すれば、若しSがOに好かれていると思っている時、SによるOの気持の知覚はSがOを好きな場合の方が嫌いな場合よりも正確だろうか。

予測、知覚上の相互、非相互によりSによるOの気持の知覚正確度に有意差はない。

問題 2.

OのSに対する気持をSが知覚する正確度は、「知覚上の選択、非選択」とどの様な関係にあるのだろうか。換言すれば、若しSがOに好かれていると思っている時の方が、SによるOの気持の知覚は、SがOに嫌われていると思っている時よりも正確だろうか。

予測: 知覚上の選択、非選択によりSによるOの気持の知覚正確度に有意差はない。

問題 3.

OのSに対する気持をSが知覚する正確度は「実際の相互型」とどの様な関係にあるのだろうか。換言すれば、若しSがOに好かれている時、SによるOの気持の知覚はSもOを好きな場合の方が嫌いな場合よりも正確だろうか。

予測: 実際の相互型の場合の方が非相互型の場合より、SによるOの気持の知覚は有意差を持って正確である。

問題 4.

OのSに対する気持をSが知覚する正確度は、OのSに対する「実際の選択、非選択」とどの様な関係にあるのだろうか。換言すれば、SによるOの気持の知覚はSがOに好かれている時の方が嫌われている時よりも正確であらうか。

予測：実際の選択の場合の方が非選択の場合より，SによるOの気持の知覚は有意差を持って正確である。

問題 5.

Oのソシオメトリック地位をSが知覚する際の正確度は、「知覚上の相互，非相互」とどのような関係にあるだろうか。換言すれば，若しSがOに好かれていると思っている時，SによるOの地位の知覚は，SがOを好きな場合の方が，嫌いな場合よりも正確だろうか。

予測：知覚上の相互，非相互により，SによるOの地位の知覚正確度に有意差はない。

問題 6.

Oのソシオメトリック地位をSが知覚する際の正確度は、「知覚上の選択，非選択」とどのような関係にあるだろうか。換言すれば，SによるOの地位の知覚は，SがOに好かれていると思っている時の方が嫌われていると思っている時よりも正確だろうか。

予測：知覚上の選択，非選択により，SによるOの地位の知覚正確度に有意差はない。

問題 7.

Oのソシオメトリック地位をSが知覚する際の正確度は、「実際の相互，非相互」とどのような関係にあるだろうか。換言すれば，若しSがOに好かれている時，SによるOの地位の知覚はSもOを好きな場合の方が嫌いな場合よりも正確だろうか。

予測：実際の相互，非相互により，SによるOの地位の知覚正確度に有意差はない。

問題 8.

Oのソシオメトリック地位をSが知覚する際の正確度は、「実際の選択，非選択」とどのような関係にあるだろうか。換言すれば，SによるOの地位の知覚は，SがOに好かれている時の方

が嫌われている時よりも正確だろうか。

予測：実際の選択，非選択により，SによるOの地位の知覚正確度に有意差はない。

Ⅲ 方 法

被調査者と調査日時

昭和37年ミシガン州立大学の夏期キャンプに参加した低所得家庭の子弟中，11乃至13才の少年達49名を対象としました。被調査者は15名，16名，18名の集団に分かれて来所し，滞在日時は各集団により異ったが，各集団とも2週間キャンプに滞在しました。

なお，キャンプの方針で毎年新しいキャンパーが来る為に，一部の例外を除いて被調査者はキャンプに来るまでお互いに未知の状態でした。白人黒人の比率は相半していました。

調査手続

被調査者を面接するにさきだち，調査者は10日間キャンプ内で生活し，各種のプログラムや食事を通して出来るだけ子供達と接触する様に心がけました。面接は午睡の時間を利用して行なわれ，調査者と被調査者は机を隔てて対座し，被調査者は同じテントに宿泊している少年達の個別写真を渡され，質問に従って3つの箱の中に入れる様に指示されました。

第1の質問では，被調査者が好きな者，嫌いな者，及び好きでも嫌いでもない者に分ける様に要求され，第2の質問では被調査者が自分を好いていると思う者，自分を嫌っていると思う者，および自分を好いても嫌ってもいいと思う者に分ける様に要求され，第3の質問では，被調査者が自分のテントの成員数の2/3以上から好かれていると思う者，1/3乃至2/3ぐらいから好かれていると思う者，1/3以下から好かれていると思う者に分ける様要求されました。

妥当性と信頼性

妥当性の検出の為に，各テントにつき2人の指導者が別個にその集団内でのソシオメトリック地

位の順位を推定する様要求され、2人の示した順位の平均と面接により得られた順位の Spearman の順位相関係数、.69, .64, .75 が得られ、t 検定により何れも .01 の有意水準が得られました。信頼性の検出の為に平行テスト法が用いられ、被調査者が3つの質問を終えた後、第1の質問と同意の質問がされました。この2つの質問から得たソシオメトリック地位の順位間に Spearman の順位相関係数、.74, .72, .81 が得られ、t 検定により何れも .01 の有意水準が得られました。

処理手続

面接に於ける3種の質問から、テント集団内のあらゆる2人の組合せについて次の資料が求められました。

- ① S の O に対する気持 (好, 中立, 嫌)
- ② O の S に対する気持 (好, 中立, 嫌)
- ③ S が知覚した O の S に対する気持 (好, 中立, 嫌)
- ④ S が O の S に対する気持を知覚した際の正確度、つまり②と③の差異、(正, 誤)
- ⑤ S の知覚する O のソシオメトリック地位 (高, 中, 低)
- ⑥ O のソシオメトリック地位 (高, 中, 低)
- ⑦ S が O の地位を知覚した際の正確度、即ち⑤と⑥の差異、(正, 誤)

上述の資料に基づき8つの調査問題の統計的処理の為に、各問題に Fisher's exact probability test と fourhold point correlation (phi) が用いられました。

第 1 表

	誤	正	
知覚上の相互型	1	8	9
知覚上の非相互型	4	0	4
	5	8	

例えば第1の調査問題に於ては、各テント集団の S 毎に S と O との間の「知覚上の相互関係」と「知覚上の非相互関係」を一辺とし、S が O の S に対する気持を知覚する際の「正」と「誤」をも

う一辺とする 2×2 分割表を作り、上述の2種の処理を49のSの各々について行いました(第1表参照)。又同様の処理が他の7つの調査問題に於ても行なわれました。

Ⅳ 分析の結果

分析の結果は第2表に示されています。

- I. 第1の調査問題では予想された様に、S が O の S に対する感情を推測する際、「知覚上の相互関係」が存在する方が存在しない場合よりも .05 の有意差を持ってその知覚が正確である S の数は、49人中唯2人だけであり、この数は Fisher's model for testing sig. of combined results により .05 の有意水準には達しませんでした。しかし fourhold point correlation の結果では過半数の S が「知覚上の相互関係」が存在する時には正確な知覚とプラスの相関関係にあることは注目すべきことと思われます。
- II. 第2の調査問題では予想に反して、S が O の S に対する感情を推測する際、S が O から好意を感じている方が感じていない場合よりも .05 の有意差を持ってその知覚が正確である S の数は、49人中14人あり、この数は Fisher's model for testing sig. of combined results により .001 の有意水準を持っている事が明かにされました。
- III. 第3の調査問題では予想された様に、S が O の S に対する感情を推測する際、「実際の相互関係」が存在する方がしない場合よりも .05 の有意差をもってその知覚が正確である S の数は49人中24人あり、この数は Fisher's model for testing sig. of combined results により .001 の有意水準を持っている事が明かにされました。
- IV. 第4の調査問題では予想された様に、S が O の S に対する感情を推測する際、O が S に好意を持っている方が持っていない場合よりも、.05 の有意差をもってその知覚が正確である S の数は49人中10人あり、この数は Fisher's model for testing sig. of combined results により .001 の有意水準を持っていることが明

かにされました。

V. 第5の調査問題では予想された様に、SがOの社会的地位を推測する際、「知覚上の相互関係」がある方がない場合よりも、.05の有意差をもってその知覚が正確であるSの数は49人中唯2人だけであり、この数は、Fisher's model for testing sig. of combined results により .05の有意水準に達しませんでした。

IV. 第6の調査問題では予想された様に、SがOの社会的地位を推測する際、SがOから好意を感じている方が感じていない場合よりも .05の有意差を持ってその知覚が正確であるSは49人中1人もいませんでした。

VII. 第7の調査問題では予想された様に、SがOの社会的地位を推測する際、「実際の相互関係」が存在する方が存在しない場合よりも .05の有意差を持ってその知覚が正確であるSの数は49人中唯1人であり、この数は Fisher's model for testing sig. of combined results により .05の有意水準に達しませんでした。

VIII. 第8の調査問題では予想された様に、SがOの社会的地位を推測する際、OがSに好意を持っている方が持っていない場合よりも .05の有意差を持って正確であるSは49人中1人もいませんでした。

第2表：調査問題についての統計分析結果

調査問題	Sの知覚	O→S間の	49のFisher's exact. prob. test 中、.05の有意水準に達した数と%	Fisher's model for testing sig. of combined results による有意水準	49の phi の分布									
	対 象	対 人 感 情			1.000 } .751	.750 } .501	.500 } .251	.250 } .001	0	-.001 } -.250	-.251 } -.500	-.501 } -.750	-.751 } -1.000	
I	O→S感情	知覚上の相互関係の有無	2/49(4%)	有意水準に達せず	0	3	20	8	7	7	5	0	0	
II	O→S感情	SがOから好悪何れの感情を感じるか	14/49(28%)	.001	6	10	13	4	4	8	2	2	0	
III	O→S感情	実際の相互関係の有無	24/49(49%)	.001	19	11	12	5	1	1	0	0	0	
IV	O→S感情	OがSに好悪何れの感情をもっているか	10/49(20%)	.001	1	5	17	11	4	7	4	0	0	
V	Oの社会的地位	知覚上の相互関係の有無	2/49(4%)	有意水準に達せず	0	3	11	17	6	11	1	0	0	
VI	Oの社会的地位	SがOから好悪何れの感情を感じるか	0/49(0%)	有意水準に達せず	0	1	8	18	3	11	8	0	0	
VII	Oの社会的地位	実際の相互関係の有無	1/49(2%)	有意水準に達せず	0	1	7	18	4	14	3	2	0	
VIII	Oの社会的地位	OがSに好悪何れの気持をもっているか	0/49(0%)	有意水準に達せず	0	0	6	18	3	12	10	0	0	

V. 結果の検討

第2の調査問題に対する予測は覆えされましたが、一体何故49人中14人ものSがOより好意を感じている時の方が好意を感じていない時よりも相手の気持を正確に知覚出来たのでしょうか。

まずSがOから好意を感じている場合OのSに対する感情の知覚が正確になるという傾向の背後

に、Tagiuri¹¹⁾の強調するSとOの間の「実際の相互関係」が何等かの役割を演じているのではないかをしらべる為に、上述の14人と残りの35人がそれぞれOから好意を感じ且つ又Oとの間に「実際の相互関係」がある場合とそうでない場合のOのSに対する気持の知覚の正確不正確について調べてみました。その結果は第3表と第4表に表わされた様に何れのグループに対してもSがOより好意を感じ且つ「実際の相互関係」がある場合

の方がそうでない場合よりもはるかに知覚が正確であることが明かになりました。

第3表：第2の調査問題で有意差を持って正確度を示した14人が、Oより好意を感じ且つOとの間に「相互関係」がある場合とない場合のO→S感情の知覚

	誤	正	
実際の相互関係あり	2 (2%)	78 (70%)	80 (72%)
実際の相互関係なし	13 (12%)	18 (16%)	31 (28%)
	15 (14%)	96 (86%)	111 (100%)

第4表：第2の調査問題で正確度を示さなかった35人が、Oより好意を感じ且つOとの間に相互関係がある場合とない場合のO→S感情の知覚

	誤	正	
実際の相互関係あり	2 (.6%)	152 (52%)	154 (52.6%)
実際の相互関係なし	95 (32.4%)	44 (15%)	139 (47.4%)
	97 (33%)	196 (67%)	293 (100%)

更に此处で注目したいことは、第2の調査問題に於て有意差を示した14人の場合に「実際の相互関係」は彼等がOと結ぶ全対人関係の72%を示しているのに反し、有意差を示さなかった35人の場合には「実際の相互関係」は彼等の全対人関係の52.6%となっており、14人グループの方が約20%「実際の相互関係」が多いことがわかります。この様に「実際の相互関係」の存在がこの14人をしてOから好感情を感じた時O→S感情の知覚が正確に行い得た理由の1つとなっているとも考えられます。

又同じ14人と35人がOから好意を感じていない場合には「実際の相互関係」の存在もO→S感情の知覚の正確性と結びついていないことが第5表と第6表によって明かにされています。

つまりSがOから好意を感じており、更にOとの間に「実際の相互関係」が存在する時にのみO→S感情の知覚が正確に行なわれる様です。

更にSのO→S感情の知覚正確度は、「知覚上

第5表：第2の調査問題で有意差を持って正確度を示した14人が、Oより好意を感じない場合で且つOとの間に「相互関係」がある時とない時のO→S感情の知覚

	誤	正	
実際の相互関係あり	17 (16%)	13 (12%)	30 (28%)
実際の相互関係なし	68 (65%)	7 (7%)	75 (72%)
	85 (85%)	20 (19%)	105 (100%)

第6表：第2の調査問題で正確度を示さなかった35人が、Oより好意を感じていない場合で且つOとの間に「相互関係」がある時とない時のO→S感情の知覚

	誤	正	
実際の相互関係あり	49 (20%)	55 (22%)	104 (42%)
実際の相互関係なし	102 (41%)	41 (17%)	143 (58%)
	151 (61%)	96 (39%)	247 (100%)

の相互関係」と「実際の相互関係」が共存している時に著しく高くなり、49人中39人(80%)のSが、知覚上と実際の2つの相互関係がSとOの間に存在する時にはしない場合よりも、有意差を持ってより正確である(Fisher's exact probability testによる)ことが示されました。

又 Ausubel^{2) 3) 4) 5)}, Schiff¹⁰⁾, Trent¹⁴⁾は対人感情の知覚と社会的地位の知覚の能力はそれぞれ別のものであることを述べていますが、2つの知覚能力が異質なものであるということがこの調査に於て対人関係とその知覚が社会的地位の知覚正確度と関係がない結果を作り出した原因であるとも考えられます。

VI 再 検 討

この研究に使われた調査方法は極めて素朴なものです。が、集団の成員間の感情と地位の知覚を1つの角度から量的に検出することが出来た様で

す。しかしこの調査にかぎらず多くのソシオメトリック知覚の研究は未だ極めて初歩的な段階にあり、より一層の進歩の為には現在得られている資料の質的な分析を行い、集団の成員間の関係と地位の知覚がどの様にして、何を基準とし、何を手がかりとして行なわれているかを掘り下げる必要があると思われます。例えば被験者の過半数は相手と「実際の相互関係」を持つ場合の方が、「実際の相互関係」を持たない場合よりも正確にO→S感情を知覚していますが、一部の者にはそうした現象は見られませんでした。この相違は何処から来るものかは現在の調査とその分析では全く不明です。ただ将来詳しい面接により知覚過程を掘りさげることによりその解答の一部が得られるかも知れません。

この調査の被験者は極めて少数であり、且つ又年齢性別社会的背景等極めて近似した子供達ばかりでした。同様の発見がはたして異った背景の集団から得られるかは不明であります。又調査は1回きりの面接により行なわれましたが、同様な結果が同じ集団から異った場所や時間に於ても得られるかを調べる必要もあるかと思われます。

又一部の被験者は如何なる「実際」或は「知覚上」の感情関係にあっても極めて正確に感情と地位の推測をなしたのに対し、一部の被験者は何時如何なる情況に於ても誤った推測しか出来ない事が発見されました。この事実はこの調査で扱った以外の要素（例えば知能、グループ経験、行動、性格等）が推測の正確度と関係していると思われる。

この調査では単に各種のソシオメトリックな対人関係や地位とその知覚正確度の関係のみを扱い、何が原因 (independent variable) であり結果 (dependent variable) であるかを答えておりません。これは調査のデザイン上の大きな欠陥として反省させられます

註 1) Asch, S. E. *Social Psychology*, Englewood Cliffs, N. J.: Prentice-Hall, 1952.

2) Ausubel, D. P. "Reciprocity of Acceptance among Adolescents, A Sociometric Study," *Sociometry*, 1953, 16, 339-349.

3) Ausubel, D. P. "Sociempathy as a Func-

tion of Sociometric Status in an Adolescent Group," *Human Relations*, 1955, 8, 175-184.

4) Ausubel, D. P. Schiff, H. M., and Tasser, E. B. "A Preliminary Study of Developmental Trends in Sociempathy: Accuracy of Perception of Own and Others' Sociometric Status," *Child Development*, 1952, 23, 111-128.

5) Ausubel, D. P., and Schiff, H. M. "Some Intrapersonal and Interpersonal Determinants of Individual Differences in Sociempathic Ability among Adolescents," *Journal of Social Psychology*, 1955, 41, 39-56.

6) Borgatta, E. "Analysis of Social Interaction and Sociometric Perception," In J. L. Moreno et. al. (ed.) *The Sociometry Reader*, Glencoe, Ill.: The Free Press, 1960, 272-297.

7) Campbell, J. D. and Yarrow, M. "Perceptual and Behavioral Correlates of Social Effectiveness," *Sociometry*, 1961, 24, 1-20.

8) Chowdhry, K. and Newcomb, T. M. "The Relative Abilities of Leaders and Non-Leaders to Estimate Opinions of their Own Groups," *Journal of Abnormal and Social Psychology*, 1952, 47, 51-57.

9) Frenkel-Brunswick, E. "Personality Theory and Perception," In R. R. Blake and G. V. Ramsey (eds.) *Perception: An Approach to Personality*, New York: Ronald Press, 1951, 356-419.

10) Schiff, J. M. "Judgmental Response Sets in the Perception of Sociometric Status," *Sociometry*, 1954, 17, 207-227.

11) Tagiuri, R. "Social Preference and its Perception," In R. Tagiuri and L. Petrullo (eds.) *Person Perception and Interpersonal Behavior*, Stanford, Calif.: Stanford Univ. Press, 1958, 316-336.

12) Tagiuri, R., Blake, R. R., and Brunner, J. S. "Some Determinants of the Perception of Positive and Negative Feelings in others," *Journal of Abnormal and Social Psychology*, 1953, 48, 585-592.

13) Tagiuri, R., Brunner, J., and Blake, R. R. "On Relation between Feelings and the Perception of Feelings among Members of Groups," In E. E. Maccaby, T. E. Newcomb, and E. L. Hartley (eds.) *Reading of Social Psychology*, New York: Henry Holt, 1958, 110-116.

14) Trent, R. "The Relationships of Anxiety to Popularity and Rejection among Institutionalized Delinquent Boys," *Child Development*, 1957, 28, 379-384.